

令和5年度 学校自己評価計画の最終報告書

石川県立金沢西高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度 判断基準	集計結果 ( )内は前期	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 GIGAスクール構想の実現に向け、ICTの効果的な活用を通じ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努め、生徒の主体的な学びおよび確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。	① 研究授業、相互参観授業を通して授業改善を図り、探究的な学習活動や質の高いグループ活動を取り入れた授業を実施する。	教務課	「効果的なICTの活用など工夫された授業が行われている」の項目においてA評価が A 65%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満  「授業を通じて学力がついてきている」という肯定的評価が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	生徒による後期授業評価アンケートで A評価 <b>54.6%</b> (53%)  →評価【C】(C)  生徒による後期授業評価アンケートで 肯定的評価 <b>85.7%</b> (85%)  →評価【A】(A)	授業において生徒がChrome bookを利用する頻度は増えたがICTの活用が進んだ反面、利用方法には更に改良の余地がある。来年度は、さらに効果的なChrome bookの活用を推進し、質の高い授業を実施していく。
	② 「総合的な探究の時間(西高プロジェクト)」の活動を通して、主体的・探究的・協働的に学び活動する態度を養う。	進路指導課	生徒アンケートで「主体的・探究的・協働的に取り組んだ」とする肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	生徒アンケート 「主体的」- 94.4%、「探究的」- 91.8% 「協働的に取り組んだ」- 94.2% 総合肯定的評価 <b>93.5%</b> →評価【B】	探究活動で外部との連携(企業訪問、フィールドワーク)を深めることができた。探究活動をより進化(深化)させるため、企画・運営組織を再構築する。
	③ 家庭学習時間量調査を実施して現状を把握・分析し、指導することで進路実現に向けた学習時間の確保を促す。	教務課	家庭学習時間が「学年+1時間」に達している生徒の割合が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	家庭学習時間調査 7月 11月 →評価 1年 52.0%【A】 → 55.0%【A】 2年 37.0%【B】 → 42.0%【A】 3年 24.0%【C】 → 35.0%【B】 全体 37.7%【B】 → 44.0%【A】	家庭学習時間が「学年+1時間」に達している生徒の割合は改善した。観点別学習評価も2年目となり、昨年以上にきめ細やかに授業で生徒の活動を見ている。この評価を通して、生徒が自らの学びを振り返る機会を増やし、これまで以上に生徒の主体的な学習を促していく。
	④ 校外模試のデータを教科と学年が連携をとって分析し、方策を検討することで、学力向上に結び付ける。	進路指導課 1・2学年	1,2年1月の校外模試3教科型偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満 ※1・2年別に達成度を判断する	1,2年1月の校外模試3教科型偏差値52以上の生徒 1年 95名・26.9% →評価【D】 2年 81名・26.1% →評価【D】	1,2年生の結果はいずれも評価がDである。現2年生から教育課程が新課程となり、教科書の内容と授業時間数とのミスマッチが原因の一つと考えられる。不足する部分は補習で補うなど、工夫が必要である。
		進路指導課 3学年	10月の校外記述模試及び、11月の共通テスト模試総合偏差値平均偏差値50以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 30%以上 B 25%以上 C 15%以上 D 15%未満 11月の共通テスト模試総合偏差値平均偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 30%以上 B 25%以上 C 15%以上 D 15%未満	3年10月の校外記述模試偏差値平均偏差値50以上の生徒 59名・30.7% →評価【A】  3年11月の共通テスト模試総合偏差値52以上の生徒 35名・19.4% →評価【C】	3年生の結果は10月模試で評価がA、11月でCとまずまずである。現3年生は国語、数学、英語の3教科の成績が1年間を通して安定してよく、それが秋以降の理科、社会への学習時間に力を入れることができている。次年度も今年度と同様に、夏までに国語、数学、英語の3教科の成績を伸ばすことに重点を置きたい。
⑤ 進路学習・探究活動を充実させることで、高い進路目標を持たせ、最後まで目標実現のため努力を継続させる指導を行う。	進路指導課	①難関国立大学、金沢大学に10名以上合格 ②北信越地区の国立大学に40名以上合格 ③北信越地区の公立大学に50名以上合格 A 3項目クリア B 2項目クリア C 1項目クリア D クリアなし	→評価【B】	国公立大学の中・後期日程からでも多くの合格者数を出したことで、2項目を達成することができた。次年度は今年度の取り組みを活かしつつ、新課程入試にも対応できるように準備し、生徒の進路実現につなげたい。	

学校関係者評価委員会の評価

- ・探究活動がマンネリ化してしまっていることに対して、発表会がゴールになってしまっているのではないかと。
- ・探究活動の目的については、教職員の目線合わせが大事。
- ・探究活動の情報収集がインターネットのみによる情報収集になってしまっていることについては、探究活動では生徒が人とつながるという感覚を養えるような仕掛けが必要だ。
- ・ICTの活用について、ツールは何であれ自発的に勉強するように仕向けることが大事である。

学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策

- ・1年生においては、探究活動の一環として企業訪問を実施しているが、2年生においても、近隣の企業や施設に出かけ、実際に質問をしたりするなどの調査活動を取り入れる。
- ・学期の校内授業公開期間に、全教員が1回以上、1人1台端末の環境で授業をするねらい等を生徒と教員の間で共有する。
- ・校内研修のさらなる充実に加えて、1人1台端末の環境で先進的に実践している中学校やモデル校に指定されている高等学校から学ぶ。

2 新型コロナウイルス感染対策の実施の要否の判断を的確に行ったうえで、組織的な教育活動を通して、生徒の規範意識を高め、将来の主権者としての自覚を促し、自立した社会人たる判断力・行動力を養う。	① 挨拶運動を通して生徒会執行部と協力し合い、学校全体の活性化を図る。自ら発する伝わる挨拶を実践し、社会人として必要なコミュニケーション能力を養う。	生徒課	生徒アンケートから、「いろいろな人に自ら発して伝わる挨拶ができた」が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	生徒による後期学校評価アンケートで 肯定的評価 <b>84%</b> (86%)  →評価【D】(C)	後期に生徒評価が低くなったことは、元旦の能登半島地震によってかなり心に不安感が強いのしかかったことが影響していると推測する。来年度に向けて、明るい未来に向かって励み続けられるよう支援していきたい。
	② 様々な交通安全指導から、自転車乗車マナーの向上を意識し、交通社会の一員としてルールへの遵守、安全への配慮等、事故防止に向けた注意力、判断力を身に付けさせる。	生徒課	自転車乗車違反件数が、年度末累計で、 A 10件未満 B 20件以下 C 30件以下 D 31件以上	石川県警察本部交通違反指導状況データより 4~11月集計(4~6月集計) 74件 (11件)  →評価【D】(B)	1月末現在で81件の指導報告を確認している。特に本校の場合、半数以上の47件が並進走行違反で、生徒たち自身違反走行という認識が薄いところがある。来年度は確実に並進走行についての違反を認識させて指導件数を減らしていきたい。

	③	いじめは絶対に許されない行為であることを周知し、他者の心情を配慮できる思いやりの心を醸成する。また、未然防止に取り組みながら、居心地の良い学校づくりに努めていく。	生徒課	「互いを尊重できる居心地の良い学校であるか」のアンケートから、肯定的評価が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	生徒による後期学校評価アンケートで肯定的評価 92% (92%) →評価【B】(B)	今年度はいじめ認知案件が2件あった。全体的に各学年及びクラス内も落ち着いていた1年と捉えている。しかし、若干見られたいじめ行為には、引き続き次年度も注意を払い生徒たちにとって居心地の良い学校づくりを推進していくことが重要と考える。	
	④	自己管理能力を高めるために、自らの健康問題にしっかりと向き合う態度を養う。	保健相談課 各学年	歯科の受診率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	1月末現在 歯科受診率 68.9% →評価【C】	集団と個別の保健指導を行っているが、歯科受診の重要性をより周知させていきたい。	
学校関係者評価委員会の評価			通学時の自転車乗車マナーがよくない生徒がいる。事故等が心配である。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			集会やホームルーム等で自転車乗車マナーの向上を意識し、交通社会の一員としてルールの遵守、安全への配慮等、事故防止に向けた注意力、判断力を身に付けさせる。				
3	文武両道の実践のもと、部活動の効率的な活動と更なる活性化を図り、心身の錬磨を通して、人間力を高めチャレンジ精神を培う。	①	運動部・文化部の活動環境の支援及び改善を図りながら活動内容を充実させる。	生徒課	「充実感や達成感を感じられる部活動が行えているか」の肯定的評価が A 85%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒による後期学校評価アンケートで肯定的評価 89% (91%) →評価【B】(A)	挨拶の評価同様、元旦の年明けに起こった能登半島地震で各競技団体の日程の先行きが見えなくなったことや部活動の一時期中止が続いたことで生徒たちの士気が下がったことがB評価に変わったと考えられる。奥能登地区の復興に伴い、次年度への前向きな取り組みを学校として支援していきたい。
		②	運動部・文化部ともに計画的かつ効率的な練習を行い、好成績につなげる。	生徒課	(運動部) 県高校総体総合成績が A 10位以内 B 20位以内 C 30位以内 D 31位以下 (文化部) 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数が A 30枚以上 B 20枚以上 C 10枚以上 D 10枚未満	年度末の実績で評価 (運動部) 県高校総体総合成績 総合19位 (R4年度:25位) →評価【B】(C) (文化部) 年間の獲得賞状枚数 28枚 (R4年度:28枚) →評価【A】(A)	
学校関係者評価委員会の評価			どこまで上位を目指すのかは、顧問によるところが大きい。また、顧問の委嘱が難しいと思われる。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			部活動指導員等の外部指導者の積極的活用を推進する。また、効率的・効果的な練習方法を常に探究し、部活動以外の業務改善も図ることで、教員の負担感を減らす。				
4	ボランティア等の諸活動や情報の発信を通して、保護者、地域との連携を密にし、信頼される学校づくりを行う。	①	学校教育活動について、ホームページやメール配信、学年通信等による積極的な配信に努め、保護者を密にし、信頼される学校づくりを行う。	教務課 総務課 各学年	「学校の情報提供は十分に行われている」という保護者が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	保護者による後期学校評価アンケートで肯定的評価 92% (92%) →評価【B】(B)	教育活動の内容をHP、学年通信、メール配信等により情報提供した結果、高い評価をいただいている。しかし、悪天候時の登校対応については、緊急メールが遅いという意見もあった。次年度は、危機管理という面からも連絡体制については改善していきたい。
			教育ウィーク、進路説明会等での保護者の来校のべ人数が A 800名以上 B 600名以上 C 400名以上 D 400名未満	保護者の来校のべ人数 889名 (R4年度:550名) →評価【A】(C)	新型コロナウイルスが5類に移行したことで、保護者等、外部の方の来校が増えた。特に秋の2年次進路説明会では多数の保護者が来校され、進路への関心の高さがうかがえた。		
		③	各分掌や各学年、各教科と連携し、生徒の読書活動を促進する	総務課	図書館の貸出冊数生徒1人あたり1月末まで A 4冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	4～1月集計 1.6冊 →評価【D】	授業で図書室を利用する機会が減っており、図書室が身近な存在ではなくなってきつつある。クロムブックで蔵書検索ができるようにしたので、来年度の貸し出し増を期待したい。
		④	学年・委員会・部活動による地域貢献や学校行事のサポートを行い、ボランティアへの関心を高める。	生徒課	ボランティア活動に参加した学年・委員・部活動の人数が A 150人以上 B 100人以上 C 50人以上 D 50人未満	金沢マラソンボランティア参加人数 100名 →評価【B】	今年度は、部単位のみならず、全校生徒に呼びかけ、Google formで申込をさせた。頑張っているランナーの姿を生徒に見せることは、生徒にとって非常に良い刺激になると思う。来年度もぜひ、参加させたい。
学校関係者評価委員会の評価			学校からの情報発信は大変重要である。ホームページやメール配信、学年通信等による積極的な配信に努めてほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			保護者の皆さんが必要としている情報を適切に提供できるよう取り組みたい。				
5	「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を踏まえ、業務の平準化を通じ教職員の時間外勤務縮減を推進し、また、ワークライフバランスを意識した業務改善につながる学校マネジメントを推進していく。	①	ワークライフバランスを常に意識し、校務の効率化に向けて具体的な取組を実践する。	教頭	具体的な取組を実践し、時間外勤務が減少した教職員の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	教職員による後期学校評価アンケートで肯定的評価 67.5% →評価【B】	教職員が各自、勤務時間を適切に管理したことが良い結果につながる大きな要因であると考えている。加え昨年、一昨年に引き続き定期試験期間の生徒の下校時刻を早め年休を取りやすい環境が作れたこと、部活動外部指導員の採用、定時退庁日のお知らせを定期的に行ったことが良かった。さらに向上させるため本年度から積極的に導入した自動採点システムの積極的な活用など、新たな策を講じたい。
			学校関係者評価委員会の評価			教職員の心身の健康を守るために、今後も積極的な業務改善に取り組んでほしい。	
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			業務の平準化と見直し・精査・改善を通じ教職員の時間外勤務縮減を推進し、ワークライフバランスを意識した業務改善につながる学校マネジメントを推進していく。				